小石川植物園後援会について

邑田　　仁（植物園）

東京大学理学部附属植物園は1684年に徳川幕府により開かれた小石川御薬園に源を発していることはすでに皆様がよく御存知のことと存じます。明治維新後1877年に東京大学に附属してからは植物学の研究・教育が盛んに行われる一方，通称「小石川植物園」の名で多くの人々に親しまれてまいりました。しかし，1945年第2次世界大戦の戦災により大きな打撃を受け，戦後は人員と予算の著しい制約を受けて復旧が十分に進まず，近代的な植物科学の研究を進める上に支障をきたすようになりました。特に，一般公開に対応するための施設・設備の維持が困難な状態となりました。そこで植物園長の諮問を受けた東京大学理学部附属植物園調査委員会は，1978年4月に東京大学理学部附属植物園調査報告をまとめ，その中で，事態を改善し，植物園の理想的な運営を行うには後援会組織が必要であると述べております。この答申を受けて，植物学教室の卒業生をはじめ附属植物園に縁故の深い方々が発起人となり，後援会の役割，組織，規約などを検討し，昭和54年4月9日に，まずは東京大学理学部に関係の深い方々を中心として小石川植物園後援会が発足いたしました。発足当時の会員数は85名でしたが，その後趣旨に御賛同下さる方々も多く，現在までに総計188名の方々の入会をいただいております。

本会には，会長1名，理事6名，監事2名，主事1名，書記2名（昭和63年6月現在）の諸役がおかれ，理事会が会の方針を決定しています。会の運営資金は主に会費収入（普通会員は終身会費）と以下に述べる出版物の頒布によりまかなわれています。

植物園の施設及び植栽植物の紹介を目的とする出版物の発行は，植物園の社会教育企画専門委員会の企画に従って行われており，後援事業のうち最も重要なものの一つです。会の発足当初は，小石川本園および日光分園の案内図と，単色刷りのパンフレット（花だより）を発行するに過ぎませんでしたが，多くの方々の御協力により，現在では小石川本園，日光分園の案内図，表紙カラーの「花だより」7種，総カラーのパンフレット「小石川植物園案内」および「日光植物園案内」，グリーティングカード（12種），日光植物園の絵はがき（8枚組）を発行し，頒布するに至りました。

後援会はまた，植物園の園内整備事業に対して毎年援助を行っています。過去の9年間に植物名ラベル総計1,972枚を寄贈したほか，休憩用のベンチ，入園者が自分の位置を知るための位置表示柱，植物や施設を解説したステンレス製の表示板，芝刈機，日光分園庁舎の宿泊・利用に関する備品，などに対して援助が行われました。

後援会は本年度が設立10年目に当ります。これを機会に，後援活動についてさらに多くの方々にご理解いただき，やがては欧米の多くの植物園で見られるように，植物園と後援会が一体となって植物園の社会教育面を充実させて，アジアの中心的な研究植物園として公開も円滑に続けられるように努力したいと考えております。